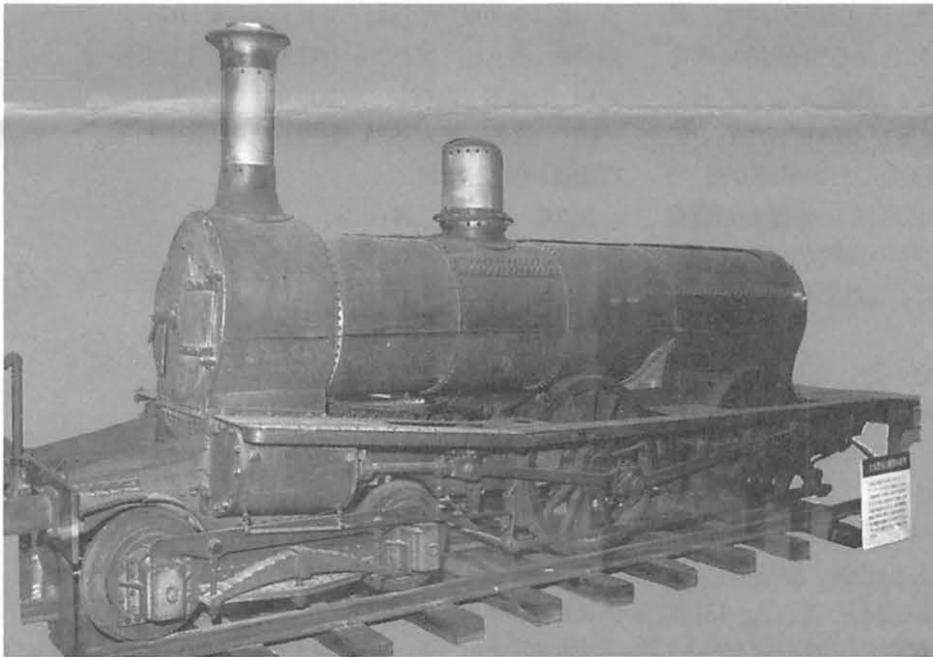


京機会ニュース

京都大学機械系工学会
No.2 1998(平成10)年4月30日

事務局：606-01 京都市左京区京都大学工学研究科機械系工学専攻
電話 075-753-5183 FAX：075-771-7286



全木製蒸気機関車模型
(写真説明は3頁に記載)

京機会平成10年度春季総会開催のご案内

本総会を下記により開催いたしますので、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

日時 平成10年5月29日(金)午後1時半より

場所 京都大学工学部物理系校舎313講義室
(時計台から東方約200m、8階の建物)

行事 (13:30~17:30)

1. 総会

- (1) 平成9年度会計報告の件
- (2) 役員改選の件
- (3) その他

2. 講演会

- (1) 「製品の開発と研究(企業と大学の立場から)」
東京大学工学研究科精密工学専攻教授
鯉渕興二氏(S36卒)

(2) 「機能材料の力学」

京都大学エネルギー科学研究科エネルギー変換
科学専攻教授 松本英治氏(S46卒)

(3) 「分子加工・分子機械」

京都大学工学研究科機械工学専攻教授
鷺津正夫氏(S51卒)

3. 懇親会 (18:00~19:30)

場所 京大会館(東一条から西へ約500m)
電話 075-751-8311)

会費 6,000円(当日会場でお支払いください)

ご出欠のお返事を50円切手貼付の上同封のはがきで5月20日までにお寄せ下さい。

京機会平成9年度総会・秋季大会報告

会長に大矢根守哉氏(S21)、副会長に西八條實氏(S21)・嶋本讓氏(S29)・小澤三敏氏(S33)を選出
京機会の第2世紀に向けて会則の変更・会長制の導入・会費制の導入・支部設立を可能に

平成9年度京機会総会

平成9年が機械系工学教室の創立100周年に当たり、例年春季大会の際に開催されます総会は平成9年11月21日(金)トヨタ自動車株式会社本社トヨタ会館において15時10分から約30分間開催されました。先ず、幹事を代表して矢部寛氏(S35)からトヨタ自動車(株)への謝辞を兼ねた挨拶がありました。その挨拶の中で、最初の卒業生が出てから100年目に当たる西暦2000年を京機会の第2世紀の出発としたい、京機会を充実させるために会長制を導入し事務機構をしっかりしたものにするための会則の提案を本日の総会において諮りたい、京機会の基盤を確固にするために平成10年度から会費を徴収する制度を導入したい、等の提案がなされました。平成8年度の会計報告と共に、これらの提案が承認されました。

会則の主な改正点は(1)「入会の際に会費3,000円を納入する」が「会員は年会費を納入する」事になったこと(当面年会費は3,000円とすることになりました)、(2)京機会の運営に関して旧会則では「本会事務を処理するため会員より幹事若干名を推薦する」ことになっていたものを「役員として会長、副会長、評議員(年度別幹事)、監事、幹事をおく」事になったこと、(3)本会に特別委員会をおいたり、地区毎に支部をおくことが可能になったこと、の3点であります。新会則が承認され、同日直ちに発効いたしました。

新会則に基づき会長、副会長の選出が行われ大矢根会長をはじめとする正副会長の4氏が満場一致で選出され、その他の役員についても会長指名が行われました。

初代京機会会長となられた大矢根氏は就任の挨拶で「今回の会則変更で全員参加型の同窓会に生まれ変わった。支部も結成できるようになり、支部や年度別幹事(評議員)を通して全員が参加する形を作っていこう。最初の半年はその準備を行いたい。」とその熱意を語られました。

総会行事の最後に、駒井謙治郎氏(S38)から京機会第2世紀記念事業について「現在準備委員会を作って案の作成を行っている。記念事業、記念式典、特別研究、特別企画を考えているが、平成10年度中に名誉教授、各地区の卒業生と話し合っ詰めを行い、記念事業委員会を構成していただく予定。卒業生各位のご協力をお願いしたい」旨の報告がありました。(文責 柴田)

(追記)なお、総会において承認されました平成8年度会計報告、及び京機会会則(改正)は京機会ニュース第1号に掲載しましたので本号では省略させていただきます。

新役員名簿

総会で承認、指名された役員、及びその後選出された評議員(年度別幹事)は次の通りです(敬称略)。

会 長 大矢根守哉(S21、京都大学名誉教授)

副会長 西八條 實(S20、(株)島津製作所会長)

同 嶋本 讓(S29、滋賀県立大学教授)

同 小澤 三敏(S33、住友重機械工業(株)社長)

評議員(年度別幹事)：

S22 卒 田原 茂二郎(広島)

S25 卒 森川 龍一(高槻)

S26 卒 岡田 守夫(大阪)

S31 卒 東 良学(柏原)・工藤 弘(門真)

S32 卒 河本 恭爾(枚方)・坂戸 瑞根(神戸)

S33 卒 岸本 秀弘(名古屋)・蛭川 昌(神戸)

S34 卒 佐古 長四郎(静岡)・川口 東白(山口)

S35 卒 松木 健次(奈良)・太田 脩二(埼玉)

S36 卒 四方 光夫(京都)・宮下 直也(川崎)

S37 卒 三木 好信(東京)・木谷 謙一(京都)

S38 卒 中川 哲(愛知)・中村 陽一(神戸)

S39 卒 岸田 尚(大阪)・澤田 邦昭(神戸)・長井 俊彦(尼崎)

S40 卒 柳井 誠(東京)・荒川 義光(名古屋)・平邦 昭(岡山)

S41 卒 中垣 邦弘(小牧)・豊田 洋民(東京)・古池 治孝(明石)

S42 卒 中村 顕(大阪)・平尾 隆(東京)・有光 秀雄(明石)

S43 卒 江藤 孝治(岡山)・宇野 義幸(岡山)・山中 猛(摂津)

S44 卒 神田 剛(姫路)・並木 宏徳(大阪)・二井内 親兵衛(東京)

S45 卒 阪口 喜好(東京)・伊奈 一雄(長野)・西田 光夫(大阪)

S46 卒 千田 衛(京都)・松宮 徹(川崎)・後藤 久夫(和歌山)

S47 卒 秋山 雅義(尼崎)・小澤 豊(高砂)・太田 誠一(京都)

S48 卒 成宮 明(大阪)・安盛 善(京都)・檀浦 貞行(山口)

S49 卒 木枝 茂和(土浦)・関納 真一(大阪)・日下部 博昭(京都)

S50 卒 盛林 茂夫(加古川)・長田 守弘(三鷹)・長岐 滋(岡山)

S51 卒 中筋 和行(大阪)・深野 明(大阪)・本城 正朗(尼崎)

S52 卒 尾上 正剛(加古川)・小島 敬良(尼崎)・藤山 一成(横浜)

S53 卒 北川 聡一(高砂)・竹ノ内 壮太郎(宇治)・北川 聡一(高砂)

S54 卒 坂口 保彦(大阪)・尾崎 永一(尼崎)・富田 栄二(岡山)

S55 卒 奥田 寛(大阪)・宮地 豊(千葉)・姫田 篤(大阪)

- S56 卒 竹内芳裕(岡崎)・羽田英夫(宇都宮)・岡田俊治(大阪)
 S57 卒 三宅俊也(加古川)・矢辺保行(尼崎)・正田明平(枚方)
 S58 卒 永瀬 豊(和歌山)・正田 理(大阪)・池内清晃(明石)
 S59 卒 平 弘二(四日市)・浜本成久(大阪)・長岡壯壽(枚方)
 S60 卒 鈴木 洋(広島)・洲崎章弘(京都)・村上弘記(東京)
 S61 卒 二股一郎(京都)・粉川良平(秦野)・栗村隆之(高砂)
 S62 卒 篠原健治郎(加古川)・川上浩司(岡山)・佐成弘毅(高砂)
 S63 卒 西川 賢司(愛知)・久保木 孝(北九州)・加賀邦彦(尼崎)

- H 元卒 望月正人(土浦)・鳴海一雅(高崎)・柴田 豊(大阪)
 H2 卒 三輪雅彦(大阪)・内山雅史(東京)・畑 善裕(京都)
 H3 卒 能勢幸嗣(横浜)・高嶺研一(東京)・佐藤利勝(名古屋)
 H4 卒 福谷和久(神戸)・林 秀樹(東京)・佐部利誠司(長崎)
 H5 卒 岩井 裕(在学中)・廣門泰樹(姫路)・雪本 徹(大阪)
 H6 卒 安威俊重(高砂)・阿部健一郎(長崎)・松田好史(愛知)
 H7 卒 古賀 響・井尾賢司・泉 祐志(静岡)
 H8 卒 笹田義幸・塩瀬隆之(在学中)・平澤 拓(在学中)

監 事 池上 詢(S33)

常任幹事：矢部寛(S35)・塩路昌宏(S50)・箕島弘二(S52)・
 Motamed Ektesabi Ali(S52)・松久寛(S45)・柴田俊忍(S34)
 ・石倉弘樹(S56)・多田直哉(S62)・中嶋薫(H6)

事務局：段智子(電話 075-753-5183 毎週水・金曜日)

平成9年度秋季大会

平成9年度京機会秋季大会はトヨタ自動車株式会社のご協力により平成9年11月21日(金)午後から同社において総会を挟んで行われました。13時から約1.5時間同社元町工場のボディ工場、第1組立工場を見学し、次いでトヨタ会館に移動し、総会の後常務取締役中川哲氏(S38)の挨拶、引き続いて3件の技術講演がありました。自動化率96 中川氏は会社側の挨拶の中で「平成9年はトヨタ自動車(株)創立60周年、自動車工業会50周年、日本機械学会100周年、等の節目の年である。20世紀は自動車が人類に夢を与えてきた。同時にこの発展によりエネルギー、安全、環境の問題が生じ21世紀はそれらの解決の時である。自動車が有益な道具であるために省エネルギー、排出ガスのクリーン化、燃料電池、耐衝突安全、予防安全等の課題があり、それらに取り組んでいる」と述べられた。次いで「人へ、社会へ、地球へ」というタイトルのVTRが放映され、予防安全への取り組みや生産現場が紹介されました。

技術講演はまず、野口好一氏(S48)から「次世代交通システム(ITS)への取り組み」と題して車・人・道路の協調をIntelligent Transport System(ITS)の立場からそれぞれの技術的に解決すべき問題点、解決のための方策、等具体的な取り組みを述べていただきました。

次いでハイブリッド車の車両全体のシステム設計に携わってこられた河村敬秀氏(S44、電気卒)が「トヨタハイブリッド車の開発」と題して講演をされました。参加者は帰途のバスや電車の中でこの講演に関連して議論の花を咲かせておられました。

技術講演の最後は矢野裕司氏(S60)の「コンピューターを活用したサイマルテニアスエンジニアリング」と題するものでCASE(Computer Aided Simultaneous Engineering)の具体的なお話を頂き、メモを取るのも忘れて聞かせていただきました。

本秋季大会は京機会始まって以来という230名の参加があり、時宜を得たテーマであったことに参加者一同心より感謝いたします。

技術講演後、ホテルフォレストにおいて懇親会が開かれ、挨拶の後富士重工業(株)名誉顧問の佐々木定道氏(S12)の乾杯の音頭で懇親の輪が広がりました。会の途中で平成10年度秋季大会の幹事会社の紹介があり、大阪ガス(株)研究開発部応用研究所所長椿本敏弘氏(S42)が歓迎の挨拶をされました。

秋季大会で大変お世話になりました、トヨタ自動車(株)、同社常務取締役中川哲氏を始め、同社の京機会会員の皆様にご心より御礼申し上げます。有り難うございました。

表紙写真説明：教室創立時から機械教室に保管されていた「全木製蒸気機関車模型」で、現在工学部物理系校舎玄関ロビーに展示されている。本模型は、1882(明治15)年にイギリス、ペイヤー・ピーコック社から購入したものを手本に日本で生産されたものである。国を挙げて殖産、工業立国を推進する中で、蒸気機関車国産の意気に燃えて当時の技術者がその構造を理解するために木で作上げたものと推定されるが詳細は不明である。
 なお、本模型について情報をお持ちの方がおられましたら御教ください。
 撮影：牧野俊郎氏(S47) 処理：高橋 豊氏(S47)

特許・実用新案・意匠・商標の出願
 異議・審判・鑑定・訴訟
 コンピュータ調査ならびに相談

山村特許事務所

弁理士 山村喜信

大阪府茨木市駅前3-2-2 晃永ビル
 TEL. 0726(26)6930
 FAX. 0726(26)6918

新しい研究科が京都大学に新設—機械系教室の発展—

全国の大学の教育組織や入試に関する新たな試みがマスコミを賑わしておりますが、京都大学もその例外ではありません。京機会の会員には自分たちの出身学科がどのようになってしまったのかという事に関心をお持ちの方もいらっしゃるかと存じます。本号では大学院重点化改組と工学研究科、エネルギー科学研究科と情報学研究科の中、機械系教室に関連のある専攻について紹介させていただきます。

京都大学の大学院重点化改組

京都大学では平成10年度から教育学部も大学院重点化改組され総合人間学部(旧教養部)を除くすべての学部が研究科(大学院)が中心となりました。従来は学部が研究科の下にぶら下がった形であったものが、逆に学部が研究科の下にぶら下がった形になったわけです。従って今後京都大学では研究科の新設はあっても学部の新設はなされないと予想されます。平成10年度は、工学部の情報学・数理工学・応用システム科学・電気通信工学各専攻及び精密工学専攻の一部が核になり「情報学研究科」が、又、東南アジア研究センター、アフリカ地域研究センターが核になり「アジア・アフリカ地域研究研究科」が新設されました。従って工学研究科からは情報学・数理工学・応用システム科学・電気通信工学各専攻はなくなりました。

工学研究科の中の機械系教室

機械工学専攻・機械物理工学専攻・精密工学専攻

工学部では平成5年度に化学系が、翌6年度に物理系(機械・精密・物理・金属系・原子核・航空各工学科)が、7年度には電気系、数理情報系が、8年度には土木・建築・資源各専攻が大学院重点化改組されました。同時に、学部学生は新しい学科に入学することになりました。これらの関係を簡単に表示すると次表のようになります。(表は平成10年度4月現在)

大学院専攻名	学部学科
土木工学・土木システム工学・資源工学・環境工学・環境地球工学	地球工学科
建築学・生活空間学	建築学科
機械工学・機械物理工学・精密工学・原子核工学・材料工学・航空宇宙工学	物理工学科
電気工学・電子物性工学	電気電子工学科
	情報学科
材料化学・物質エネルギー化学・分子工学・高分子化学・合成生物化学・化学工学	工業化学科

表示のように大学院は21専攻、学部は6学科となっております。情報学科のように工学研究科には対応する専攻のない学科も出て参りました。従来の機械系3学科はそのまま3専攻となっておりますが、「物理工学科(機械工学第2学科)」はその名称を学部学科の名前としたために「機械物理工学専攻」と名称変更しました。学生は工学部物理工学科に入学して共通の基礎科目を学習し、3回生になる時点で機械システム学・材料科学・エネルギー理工学・航空宇宙基礎の4つのコースに分属されて、専門に進みます。

このような改組の目的は、近年の先端化した科学技術の要求と、21世紀に向かつての高度な基礎研究の一層の充実と新たな学問分野への進展の必要性に応え、更に多面的かつ高度な専門能力を有する人材の育成を目指して、教育・研究の重点を学部から大学院へ移行させることにあります。

講座名称等の詳細については平成9年発行の京機会名簿に掲載しておりますのでここでは省略いたします。教官構成は次の通りです。

機械工学専攻

教授：吉川恒夫・島進・鷲津正夫・駒井謙治郎・柴田俊忍・鈴木健二郎・小森悟
落合庄治郎*・池内健*
助教授：横小路泰義・小寺秀俊・箕島弘二・中部主敬・脇坂知行・北條正樹*
講師：手島清美・稲岡恭二
助手：山本稷・正脇謙次・加畑博幸・金丸一宏・長田弘二・城山友廣

機械物理工学専攻

教授：大谷隆一・藤本孝・牧野俊郎・立花明知
助教授：木村健二・北村隆行・橋本敏・蓮尾昌裕・松本充弘
助手：中嶋薫・多田直哉・加藤博之・岡阪令・若林英信

精密工学専攻

教授：久保愛三・矢部寛・垣野義昭・山品元・松久寛
助教授：榎木哲夫・藤尾博重・Motamed Ektesabi Ali・

吉村允孝・中井幹雄

助手：野中鉄也・井原之敏・松原厚・水山元・石倉弘樹・本田善久

これらの3専攻の他にエネルギー科学研究科、情報学研究科の教官も、学部の機械システム学コースの教育に携わります。なお、機械物理工学専攻では原子炉実験所の2分野が教育に協力しております。(藤本 孝)
(注：*印の落合・北條先生はメゾ材料研究センター、池内先生は再生医科学研究所の教官です。)

エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻

大学院エネルギー科学研究科が発足して2年になりました。機械、精密、機械物理工学専攻とともに京機会の基盤となる第4番目の専攻として、エネルギー変換科学専攻から初めての修士課程の卒業生19人がこの4月には社会に出るとともに京機会の会員となります。就職先は、これまでの機械系と殆ど同じく京機会の先輩の企業が多く、昨年と一昨年のエネルギー応用工学専攻の卒業生ともに、よろしくお願い申し上げます。

さて、エネルギー科学研究科は、21世紀のエネルギー危機と付随する環境問題を中心的に取り上げ、そのための教育・研究を行うことを目的とし、大学院研究科(これまでとは逆に、学部がいわば大学院の付属機構になった大学院重点化改組以降では、昔の言葉で言うと学部)に相当)のはしりとして、4年前に創られたエネルギー応用工学専攻を基盤として創設されたものです。エネルギー応用工学専攻が、機械、金属、原子核各学科の寄り合い所帯であったのに対し、エネルギー変換科学専攻は、小規模ですが、機械系の一環になります。

教官構成は以下の通りです。

教授：池上 詢(S33)、井上達雄(S38)

松本栄治(S46)、塩路昌弘(S50)

助教授・講師：星出敏彦(S52)、石山拓二(S53)

今谷勝治(S58)、玉川雅章(S63)

助手：川那部 洋(H2)、堤 三佳(H4)

この他に、客員講座と宇治のエネルギー理工学研究所の3講座が教育に協力しています。

教育等はすべて機械関係で、燃焼、内燃機関、排気などの研究とともに、エネルギー機器の機能と設計に関する研究を行っています。数年で全員が“エネルギー問題”の専門家になるわけではありませんが、学生は、従来の基礎科目に加えて、独自のエネルギー関連、特にエネルギー社会・環境科学のカリキュラムを必修科目として修得することなどから、基礎学力以外に、エネルギー・環境問題に対する知見と感覚を身につけた

卒業生が世に出てくることになります。(井上達雄)

情報学研究科 システム科学専攻 人間機械共生系大講座

大学院情報学研究科は本年4月に発足しました。42基幹分野、11協力分野、5連携分野、1客員分野で、知能情報学、社会情報学、複雑系科学、数理工学、システム科学、通信情報システムの6専攻から成ります。

21世紀は情報文明の世紀であるといわれています。そこでの高度情報化社会の健全な発展に資する学問的基礎の確立、総合的な視点からの先駆的・独創的な研究の推進、視野の広い優れた人材の育成を目的として、従来の情報科学あるいは情報工学ではなく、情報学という新しい研究科名称が採用されました。工学研究科だけではなく、総合人間学部、文学研究科、理学研究科、農学研究科などの幅広い領域からの教官の参加により、新しい情報学の創出を目指しております。修士定員は165名、博士後期課程定員は74名です。

私の属する人間機械共生系大講座は、システム科学専攻にあり、機械に代表される人工システムと人間や環境の関わり合いの調和を重視し、このための原理や方法論および具体的なシステム作りについて教育・研究を行います。講座の教官と分野の構成は以下の通りです。

共生システム論分野：教授・片井 修(S44)、助教授・川上浩司(S62)、助手・井田正明(S63)

ヒューマンシステム論分野：教授・熊本博光(S44)、助教授・西原 修(S59)、助手・10月着任予定

機械システム制御分野：教授・杉江俊治(S51)、助教授・大須賀公一、助手・藤本健治(H6)

ヒューマン・システム・インタラクション分野(ATR人間情報通信研究所・知能映像通信研究所との連携)：教授・下原勝憲、助教授・岡田美智男

皆様と力を合わせ、微力ながら機械系の発展に尽くしたいと思います。(片井 修)

麻混紡糸「三本杉」

姫田産業株式会社(販売元)

姫田紡績株式会社(製造元)

不動産賃貸管理 岸和田アーバンビレッジ

東谷町ビル

北堀江メゾンクレール

株式会社ハイメッド

代表取締役 姫田 篤 (昭和56年卒)

大阪市西区北堀江1-21-27 電話 06-541-6661

同窓会のお手伝いをいたします

各地区、クラス会、研究室等の同窓会の開催などの便宜を図るために、最新の学年別名簿の提供や、宛名印刷などのお手伝いをいたします。京機会事務局(段 智子、電話 075-753-5183、水曜日と金曜日)又は名簿担当幹事の松久(電話及びFax 075-753-5225)までご連絡下さい。京機会 名簿係

同窓会・クラス会開催のお知らせ

京機九日会

京機九日会は次の2つの事業を行っている。

(1) 1月例会：これは京機会会員の新年宴会であり、毎年1月9日頃に大阪で開催されている。100～150人が出席し、同窓生としての交流範囲を広げ、親交を深めている。この例会の企画運営は関西所在の当番会社の会員が行う。京機会会員は誰でも自由に参加することができる。多数の会員の参加を歓迎する。

(2) 1月以外の例会：これは懇親午餐会であり、特定の月の9日に大阪で開催される(年3回)。人生や仕事の体験談、現在の仕事や生き甲斐、これからの協力関係作りや趣味の交流などを通して交遊を楽しんでいる。予め登録した会員のみが参加できる。登録受付は、京機会ニュースNo.3(次号)以降の毎号に公示する。多数の会員が登録されるようお勧めする。

なお京機九日会は関西在住の京機会会員の会であり、70年以上の長い伝統を持つ。それは懇親と技術交流のため毎月九日に晩餐と講演の会として開催されていたが、最近都合により上記(1)の1月例会のみを開催していた。

しかし本年3月から上記(2)の会合を、有志21名で試行的に再開している。参加者は1年毎の登録制とし、その登録期間中は毎回出席することを原則とする。1年間の登録制にした理由は、期間中は交遊を大いに楽しむこと、気軽に入退会ができること、通信経費節減と事務簡素化のためである。

京機九日会は現在、(1),(2)の事業のみを行っているが、今後は会員のニーズに応じて、新発想の行事を小規模でも多様に追加されることを期待している。また、京機九日会が、新しい京機会の関西支部創設の核になることを期待している。(森川龍一、大矢根守哉 記)

S44 卒業同窓会

30年ぶりに会いましょう。

日時：7月18日(土)午後2時半～5時

場所：京大会館 会費：6,000円

出欠のお返事は片井修(katai@prec.kyoto-u.ac.jp)か熊本博光(kumamoto@prec.kyoto-u.ac.jp)まで、6月末までをお願いします。

FAX 075-771-7286

606-8501 京都大学情報学研究科システム科学専攻

機械自主研同窓会

団塊の世代も人生の曲がり角にやってきました。過去の馬鹿ばなし、現在の愚痴、未来の夢などについての雑談をしたいと思います。ご家族連れでご参加下さい。

時：6月13日(土)17時～

所：こうろ(京都市中京区六角、075-221-7807)

会費：1万円

S41 入学orS45 卒業の同窓会

団塊の世代も人生の曲がり角にやってきました。過去の馬鹿ばなし、現在の愚痴、未来の夢などについての雑談をしたいと思います。ご家族連れでどうぞ。

時：6月13日(土)13時～

所：天寅(京都市左京区南大久保41、075-721-2373)

散電「元田中」駅西北)

会費：6,000円

「機械自主研同窓会」及び「S41 入学orS45 卒業の同窓会」については、出席される方は、松久 寛(606-8501 京都市左京区吉田本町京都大学工学研究科精密工学専攻、電話及びFax 075-753-5225、E-mail:matsu@prec.kyoto-u.ac.jp)まで、ご連絡願います。締め切りは5月末日とします。又、欠席の方もはがきでメッセージを頂ければ当日回覧したいと思います。

機河会総会ご案内

(河本先生研究室同窓会)

日時：平成10年8月29日(土)13時～

場所：京大会館 (例年通り)

詳細通知はご希望の方に8月初め別送しますので下記宛請求して下さい。

請求先：京橋工業株式会社 内機河会事務局

クラス会便り

京機会事務局に寄せられましたクラス会開催のお便りを紹介いたします。楽しいニュースをお待ちしております。

三恵会(昭和16年後期)クラス会

京大機械16年後期のローマ字頭文字=3K⇒三恵がこの会の名称の起源で、よき師・よき友・よき集いの3つの恵を享ける事を願ったものです。

平成9年6月10日にち新潟県瀬波温泉で27回目の集まりをしました。同伴夫人・未亡人を含め計20人が参集し、和やかな一夜を過ごしました。(三木記)



昭和23年卒クラス会

平成9年のクラス会は11月28日にホテル・グランピリア京都の15階の六本木楼外楼にて行いました。新装駅の外観については各種批判もありましたが、その壮さ及び15階会場よりの東寺を含めた京都南方区域の景観については一驚するものがありました。

参加人員は13名にて、遠路遙々、東京、魚津、広島、岩国等より来京され、密度の高い、美術、スポーツ、社会奉仕、世界文化交流、京大情報等の歓談に一刻を過ごすことができました。平成10年のクラス会は、卒業50年の節目に当たりますので、お世話になった先生方をお招きして京都にて盛大に行うことに決定いたしました。その節には、京大機械教室への哀愁止み難いもの

があり、教室訪問の予定も組み込まれております。(幹事 江本隆一)



昭和39年卒クラス会

昭和39年卒業の同期会が平成9年11月15日、物理工学科会議室で18名が参加して行われた。卒業以来はや33年が経過し、髪も変わったが、一目見て名前が思い出され話が弾んだ。また、新しい校舎を見学してその変化に驚いた。その後ビヤガーデンへ行き旧交を温めた。(垣野義昭)



各種産業の自動化・省力化に
システムで貢献する



滝川工業株式会社

T A K I G A W A

本社 兵庫県加古川市別府町石町52 TEL (0794) 35-1221代
加古川工場 兵庫県加古川市平岡町中野211 TEL (0794) 37-1771代
新島工場 兵庫県播磨町新島35 TEL (0794) 35-0750代
厚木工場 神奈川県厚木市恩名字沖原1576 TEL (0462) 21-5323代
東京営業所 東京都中央区日本橋本町2丁目2 TEL (03) 3662-4281代
事業所 加古川・別府・高砂・神戸

平成9年度京機会収支決算報告 (自H9.4.1至H10.3.31)

I. 一般会計の部

1. 収入

摘要	金額	内訳	
		明細	金額
前期より繰越	2,843,319	第一勧銀普通預金 住友銀行普通預金 現金 郵便振替口座	2,729,708 10,176 41,555 61,880
入会金	285,000	平成9年度分 95名 (@3000)	
預金利息	12,078	定期預金利息 第一勧銀普通預金利息 住友銀行普通預金利息	10,343 1,724 11
京機会名簿	6,100,000	学生(@1000) 4名 一般(@8000) 762名	
京機会広告掲載料	1,538,635	名簿広告 28件 ニュースター広告 1件	
大会参加費	1,860,000	参加者186名(@10000)	
繰入金	2,516,400	特別会計 基本金	1,916,400 600,000
合計	15,155,432		

2. 支出

摘要	金額	内訳	
		明細	金額
会員通信費	1,057,832	名簿発送費 百周年記念大会案内発送費 秋季大会案内発送費 その他	290,240 361,200 366,180 40,212
印刷費	3,059,630	名簿印刷費等 百周年記念大会案内等印刷費 秋季大会(ニュースター等)印刷費	2,307,300 349,514 402,816
消耗品費	375,001	パソコン購入費等	
人件費	570,072	常勤(週2日)及び臨時アルバイト代	
旅費	453,690	百周年記念大会講演者旅費 その他	436,400 17,290
大会経費	2,866,457	百周年記念大会懇親会等経費	
雑費	55,516	郵便振替及び銀行手数料等	
合計	8,438,198		

3. 次期繰越金 (H10.3.31現在)

摘要	金額
第一勧銀普通預金	1,929,570
現金	64,974
郵便振替	17,990
郵便定期預金	4,704,700
合計	6,717,234

4. 基本金

摘要	金額
第一勧銀定期預金	206,535
第一勧銀定期預金 (朝永、岡本、金子、菊川、西原、長尾、 柿本各基金を含む)	176,995
合計	383,530

II. 特別会計の部

1. 資産財産目録 (H10.3.31現在)

資産種別	金額	資産種別	金額
第一勧銀定期(005)	1,000,000	第一勧銀定期(011)	2,000,000
第一勧銀定期(006)	1,800,000	第一勧銀定期(012)	2,000,000
第一勧銀定期(008)	1,000,000	2年国債(野村証券)	7,200,000
第一勧銀定期(009)	1,000,000	第一勧銀普通預金	1,502,941
第一勧銀定期(010)	1,000,000		
合計		合計	18,502,941

2. 収支明細

摘要	収入	支出
定期貯金利息	30,484	
中期国債配当金	74,501	
普通預金利息	1,644	
繰出金(一般会計へ)		1,916,400
合計	106,629	1,916,400

平成8年度決算より
△¥1,809,771

京機会からのお知らせとお願い

京機会の第2世紀へ向かっての体制作りのために、平成9年度の総会において会則が改正され京機会が再出発することになりました。総会以後、正副会長指導の下に数回にわたって幹事会が開かれ、新体制に向かった議論を行いました。平成9年度総会における大矢根会長の挨拶(2頁参照)にありました「従来の現職教官主導型から全員参加型の京機会への発展的変換」を行うにはどのようにすべきかということに議論が集中いたしました。その間、京機九日会(6頁参照)に出席された方々にアンケートに回答して頂いたりもしました。

100年の歴史を持つ京機会の体質を一挙に変えることは大変困難ですが、知恵を絞りながら「全員参加型の京機会」に発展するよう努力したいと考えています。

役員には正副会長始め多数の学外卒業生を得て運営できる体制にし、京機会ニュースを発行し、また、各地に支部を設立して京機会を活性化することができるようになりました。その具体化に向けて、評議員(年度別幹事)が選任され、第1回の評議員会が5月29日の総会の前に開催される予定になっています。ニュースではどのような会員サービスが可能かを探りたいと考え、第2号ではクラス会のニュースを掲載するように致しました。また、最新の名簿の提供、宛名印刷等のお手伝いを通して支部の設立の核作りに協力して行きたいと考えております。(幹事)

会費制導入と会費納入のお願い

平成9年度の総会において会則が改正され、「第4条 会員は年会費(額は別に定める)を納入する」ことが承認されました。同時に年会費の額は3,000円とすることも承認され、平成10年度から納入していただくことになりました。

京機会の会計の現状について：京機会の旧会則では「第4条 本会会員は入会に際し、会費として金3,000円を納めるものとする」と定められており、学部の3回生になったとき入会金=永久会費としてこの金額を納めてきました。この収入だけでは春と秋の大会の案内通知状の印刷、郵送費に対して毎年約50万円不足し、この不足分は数年に一度発行する京機会名簿の広告代及び売り上げ代からの剰余金で補っております。

京機会を同窓会として活力あるものにするために：卒業生全員に魅力ある同窓会とするために、京機会のあり方、運営について根本から見直していくことになりました。しかし、そのための事務費、人件費、通信費、等が必要になります。そこで従来になかった会費制を導入することになった次第です。なお平成9年度の総会

においてごく最近の卒業生に対しては会費納入に関しては経過措置を講ずることになっております。

会費導入による一般会計の収入予測：現在、卒業生6,500名の内、生存されており、且つ、連絡可能な方はほぼ4,500名前後であります。この内、どれほどの方が会費を納入されるか、予測は不可能ですが、その収入に応じて京機会としての活動に幅が生じます。たとえば全員が会費納入した場合には、名簿の無料配布、支部活動の援助、年長会員の会費免除などが可能になることと考えられます。しかし、会費納入者が少ない場合は、「京機会ニュース」の印刷、発送、専任事務員の人件費(週2日勤務)は確保できますが、会員相互の交流、情報伝達の場として「ニュース」を発展させることも難しくなるでしょう。

会費納入にご協力を：以上の事情をご賢察の上、京機会会員におかれましては是非年会費3,000円を同封の振込用紙を用いてご納入いただきますようお願い申し上げます。2年以上の会費納入も歓迎いたします。なお、会費納入者には名簿代金割引などの優遇措置も検討しております。何卒、会費の納入をよろしくお願い致します。

京機会の home-page の開設：京機会の home-page を開設致しました。アクセスして頂くときのアドレスは <http://mech-server.mech.kyoto-u.ac.jp> です。

京機会会員名簿：京機会会員名簿が平成9年3月に新しく発行されました。京都大学100周年記念として「機械工学関連教室・専攻 小史」(26頁)が掲載されています。未購入の方は総会出欠の返信はがきに購入希望の旨をご記入の上ご投函下さい。なお、価格は8,000円です。支払いは名簿に折り込みの払い込み用紙でお願いいたします。

原稿募集：京機会ニュースへの原稿を募集しております。同窓会の開催案内や同窓会の集合写真、会員に知らせたいと思われる情報などをお送り下さい。紙面の都合で割愛したり、縮小することもあります。その点は予めご了承願います。宛先は教室の「京機会事務局」で結構です。尚、発行は春秋の総会・大会の約1月前になることもご了承下さい。

広告募集：京機会ニュースの印刷費、発送費を補うために広告を募集いたします。このニュースは卒業生(4500名)、教室教職員(100名)、関連教室の大学院及び学部学生(400名)に配布いたします。また、広告掲載料はA4判1頁大8万円、半頁大5万円、1/4頁大3万円、1/8頁大1.5万円です。

教室便り

機械系関連教室の教官の移動

平成9年10月以降の機械系教室の教官の移動は次の通りです。

平成10年3月停年退官

万波通彦教授(機械物理工学専攻)

石井慶之助教授(機械物理工学専攻)

転勤：琵琶志朗助手(H元)は4月より名古屋大学へ転出

移動：精密工学専攻の片井修教授(S44)、熊本博光助教授

(S44)、西原修助手(S59)、井田正明助手(S63)及び応

用システム科学専攻の杉江俊治教授(S51)、藤本健治助

手(H6)は4月9日発足の情報学専攻のシステム科学

専攻に移動されました。詳細は4～5頁をご参照下さい。

新任：創刊号発行後、平成10年4月1日以前に機械系関連教室に着任された先生方は次の通りです。

松本充宏助教授：S59年京大理学部卒。名古屋大学工学研究科応用物理学専攻から機械物理工学専攻に平成10年2月1日着任。専門は伝熱学。

小森 悟教授：S49年京大工学部化学工学卒。九州大学工学部化学機械工学科から機械工学専攻に4月1日着任。専門は環境流体力学。

立花明知教授：S49年京大工学部石油化学科卒。京大工学研究科分子工学専攻から機械物理工学専攻に4月1日着任。専門は量子物理化学。

長田弘二助手：H4年九大工学部化学機械科卒。九大から機械工学専攻に4月1日着任。専門は環境流体力学。

機械系関連教室の学生の移動

卒業・修了と進路：平成9年度の工学部物理工学科機械システム学コースの卒業生及び工学研究科の機械・精密・機械物理工学3専攻の大学院修士課程の修了者の進路は次の通りです。

	総数	内 訳		
		就職	進学	その他
学部	107	20	79	8
修士	84	74	8	2

また、エネルギー科学研究科エネルギー変換科学専攻の修士課程修了者(第1期生)は19名で、企業に就職した者は17名、博士課程に進学した者は2名です。

入学・進学：平成10年4月物理工学科の2回生から機械システム学コースに進学した者は257名中113名、エネルギー理工学コースエネルギー応用サブコースに進学した者は36名です。又、機械系関連専攻の修士及び博士課程への進学者数は次表の通りです。

研究科 (注)	定員	進学者	出身内訳	
			京大	他大学
修士課程				
工学・3専攻	73	78	68	10
エネルギー	19	21	20	1
情報(大講座)	10	15	13	2
博士課程				
工学・3専攻	27	14	8	6
エネルギー	7	7	2	5
情報(大講座)	4	4	2	2

注：工学・3専攻は工学研究科の「機械」「機械物理」「精密」各工学専攻、エネルギーはエネルギー科学研究科のエネルギー変換科学専攻、情報(大講座)は情報学専攻システム科学専攻人間機械共生系大講座です。

編集後記

4月早々に第2号をお送りする計画でしたが、諸般の事情で遅れてしまいました。総会への出席の予定が立たなくなるなどご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。また、文章ばかりのニュースになってしまったことを反省しております。

創刊号の発行後、小浜弘幸氏(S32)から、学会のニュースレターを5年間毎月続けてこられた経験を基に、創刊号に対する貴重なご意見を頂きました。有り難うございました。第2号に対しても会員の皆様の忌憚のないご意見、注文等をお寄せいただきますことをお願いいたします。春季総会の出欠の返信はがきの通信欄にご記入頂いても結構です。

平成9年度の総会において大矢根会長は挨拶の中で「同窓会では互いに喜んで呼び合うことにしたい」と話されました。本号においてはできるだけ「氏」で統一するようにし、お名前の後に会員名簿に記載されている卒業年を括弧の中に入れました。

創刊号でお願いしました広告募集で3名の会員から広告掲載を頂きました。ご協力を感謝しますと共に今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

京都大学総合博物館では5月23日(土)まで「福井謙一博士 その人と学問」と題された春季企画展示が行われております。福井博士の理論と現代科学との関わりもさることながら、大学に入学するまでの教育、大学における学問と研究、教育のあり方など今日的な問題を考えさせる展示でした。日曜日も開館しておりますのでお近くの方はどうぞ。(T.S.)